

3月8日(月)

Singapore General Hospital(PGMI、ENT、ER、リハビリテーション部)

佐藤 直実

---

ついに海外研修初日となりました。今日は初顔合わせ、かつプレゼンテーションの日とあって少し緊張ぎみのスタートとなりました。8時15分にホテルロビーに集合。シンガポールと日本では1時間の時差があり、日本時間で言うと9時15分というゆっくりめの集合にまずは心が弾みます。空気も夏、期待が膨らむ朝です。

ホテルから病院までは MRT 一駅分とあまり距離がないのですが、病院の入口からが非常に遠く、PGMI (Post Graduate Medical Institute) にたどり着くまでに迷ってしまいました。敷地がとても広くて、さまざまな設備を備えた大きな病院であることを実感させられました。

たどり着いた PGMI はとても綺麗でした。そういえば去年のレポートで写真を見た記憶があったのですが、実際目の当たりにすると感動もひとしおです。目の前の廊下がアジアリゾートのホテルみたいな感じで、建物自体もすごく清潔感があって綺麗で、自分がいつも見ている病院の光景とのギャップに驚かされました。



【PGMI 前で】



【PGMI 教室内】

はじめに Dr. Diana Goh より御挨拶をいただきます。シンガポールの医療事情や General Hospital の一般情報を教えていただき、PGMI の紹介も。質疑応答では家庭医学関連の話で盛り上がっていました。私はとはいえ、まず英語が早くてなかなか聞き取れない！暑い中歩いてきた疲れもあり、聞き取る努力をしながら睡魔とも闘い、内容を理解するので精一杯でした…。とても質問できず。反省。

というわけで、SGH 紹介ツアーにはがんばって食いついてくぞ！とまずは先頭集団確保しました！最初の ENT Centre に行く前にいろいろな場所を通りました。特に印象的だったのは漢方センターと（建物自体が中華風でおしゃれ。こういう工夫ってなかなか日本では見ないなあ。私大とか私立病院

とかではあるのかもしれませんが。) 売店の存在。なぜか病院内に普通のアクセサリとか売ってる屋台があって、結構買ってる人もいた。なぜ??



【漢方センター前】

そして ENT センターにたどり着いたわけなのですが、ここから色々説明して下さったのですが正直私にはよく分かりませんでした。さすが進んでいると思ったのは、診察室が全部個室になっていることです。やはりプライバシーなどに関して、日本よりも意識が高いと思いました。他は日本と同じ点、違う点などについてよく分からなかったのですが、耳鼻科の先生方が感激していた（補聴器など）から多分よかったです。唯一おもしろいと思ったのは壁！壁一面に展示などがあり、ちょっとした博物館的でした。これは面白かったです。



【壁の展示の様子。大きい耳など色々なものが飾ってありました】

次に ER へ。ER は面白かったです。ガラス張りの向こうに救急車の駐車スペースがあって、そこからトリアージ（さらに発熱患者だけ Fever Area に分類）、診察室、観察室と入っていくのがとても機能的だと思いました。しかもトリアージは看護師さんがするというので、本当に欧米型 ER のシ

ステムなんだなあと思いました。また、欧米型 ER（外来型 ER）は入院ベッドがなく、観察用ベッドのみということで、そういうところも面白かったです。今自分のいる東北大学病院は ICU 型の救命救急センターで、病棟メインで見ている感じなので…。月曜だったということもあって外来は患者であふれていました。こんなところで研修したら鍛えられるんだろうなー、と少し羨ましくなりました。東北大学の救急ももちろん勉強になるのですが、1次から受け入れる外来型の救急で勉強したい気持ちもあります。2年目は市中病院でも研修をするつもりなのですが。



#### 【ガラス張りの扉の向こうの救急車】

次にリハビリセンターへ。ここも専門的すぎて私にはよく分かりませんでした。ここも耳鼻科の先生方が感激していたので多分よかったですでしょう。ただ、私がよく分からないと思っていることの背景には、日本ではあんまりリハビリのことを医者が知らないってことなのかな、と考えさせられました。聴覚療法士が大学にいるかどうか、そういえば知らないし…。それ以前に、理学療法と作業療法の違いについてきちんと説明できる自信もありません。もっとリハビリのことを知ってみようと思いました。そう思えただけでも収穫だったと思うようにします。

午前中は以上で終了となりました。個人的にはもっとスーパーローテートと関係のある科を見たかったのですが（以前見たい科はないか聞かれた時はそこまで頭が回りませんでした）、病院全体の雰囲気味わうことができたことがまずは一番の収穫だったと思いました。